

平成 29 年 6 月 21 日

第 1 回遠野市総合教育会議会議録

遠 野 市

平成29年6月21日 第1回遠野市総合教育会議会議録

- 1 開催場所 遠野市役所とびあ庁舎大会議室
- 2 開催日時 平成29年6月21日(水) 午前10時00分
- 3 出席状況

○出席者

市	長	本	田	敏	秋
教	育	長	中	浜	艶
委		員	角	田	直
委		員	千	田	由
委		員	菊	池	崇
委		員	菊	池	和

○説明等のため出席した職員

教育部長兼中高連携サポート室長	澤	村	一	行
子育て総合支援センター所長兼総合食育センター所長	多	田	博	子
市民センター所長	石	田	久	男
教務課長	畑	山	透	
学校教育課長	新	井	野	邦
総合食育推進課長	菊	池	幸	司
生涯学習スポーツ課長	朝	倉	優	香
子育て総合支援課長	白	岩	克	己
文化課長	佐	々	木	修

開会・開議 午前10時00分

1 開会

○教育部長

(会議資料の確認)

本日は、市長、教育長、教育委員、皆さん全員の出席となっております。
はじめに、市長からのご挨拶をいただきたいと思います。

○市長

おはようございます。平成29年度に入り、今日は6月21日ということで、新年度がスタートし3カ月になろうとしており、本庁舎を失い、14ヶ所に分散していた市役所機能が間もなく9月3日に共用開始、開所式、落成式とカウントダウンが始まってお

ります。市政課題は文字通り待ったなし。その中で、宮守総合支所の旧宮守村議会で6年近く市政課題を議論してきたことに私どもは誇りを持たなければならないと思います。ある市議会議員から、遠野市議会はこんな所でやっているのかという、こんな所だという、忘れられない言葉として思い起こしております。議会の議論する場であり、また、様々な市政課題を議論する場が整っているというよりも、中身に大きな課題があると思っております。9月に議場も立派になるわけですが、文字通り議論が深まり、市政課題に市民が一丸となって取り組める環境を作り上げることが、新庁舎に対する我々の答えとして、我々行政を執行する者も、それを受けて立つ議員も、良い緊張間の中で中身のある議論をすることが求められているのではないかと思います。

そういった中で今日は、今年度第1回目の総合教育会議であります。

先ほど司会からありました、「わらすっこの城」、学びの場づくりの2つのテーマについて議論を深めて参りたいと思います。

それに先立ち、本日、県の教育長に面談を求めています。高校再編に係る、市と議会、連盟で要望活動を展開したいと考えております。残された時間は今年度の志願者によって、2年連続20人を下回った場合においては再編やむなしといった中で、時間の配慮をいただいた中で、志願者を遠野高校、緑峰高校にということで、高校の魅力度を懸命に取り組んでいる最中であります。高校も魅力化のために頑張っている。立ち上がった市民会議の皆さんもそれを懸命にサポートしている。我々市も、議会も、教育委員会もそれを行政の立場で支え、連携を取っていくために時間の猶予を求めたいということ正式に県の教育長に申し入れしようと思っているところです。

市民会議の皆さんは人口減少、さらには過疎地における高等教育のあり方を国や県の制度として、少人数学級でも学校経営が出来るという部分を制度改正に持って行くという部分で署名活動を展開する動きも出てきているところです。それを含めて遠野から、人口減少、少子化といったものに立ち向かう高等教育のあり方について発信、提案をし、県や国を動かす方向に持って行きたいと思っております。

今の高等学校のあり方の制度は、平成6年以降制度改正が行われていない。しかし少子化が進んでいる中で、今の高等教育のあり方を、少人数学級でも十分な学校経営が出来るという制度に持って行くことを求められているのではないかと思いますので、その辺を強く訴えてきたいと考えておりますので、各委員の皆さん、今日の総合教育会議にオブザーバーとして参加されている皆さんのご理解とご支援、遠野としての総合力をこの問題に向かっていきたいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。繰り返しになりますが、市民会議、遠野高校、緑峰高校の懸命な高校魅力化の取り組みは、涙ぐましい努力をひしひしと感じております。先般、富士大学で講座を行った際に、学長から昨日遠野高校の校長が来て、色々な話を聞き、我々も何か出来ることがあれば応援するとの話もありました。遠野高等学校、緑峰高等学校も懸命に頑張っている。それを受け止め、取り組みに歩調を合わせながら、遠野から発信し

ていくことが大事かなということを付け加えまして挨拶とさせていただきます。

○教育部長

ありがとうございました。それでは、ここから遠野市総合教育会議設置要綱第4条第5項の規定により市長が議長になりますことから、会議の進行を市長にお願いします。よろしくをお願いします。

○市長

それでは、先ほど資料の紹介がありましたがそれに基づいて進めます。

最初に報告事項ですが、先ほどの挨拶にも含みましたが、今日の午後に私と市議会議長、教育長とで県の教育長に面談を求めておりまして、要望書を提出する方向で行動を起こそうと思っておりますので、その取り組み状況について各委員の皆さんにご報告を申し上げます。

中高連携サポート室を立ち上げまして、一年以上が経ちました。その部分を含めながらの活動の報告をいたしますので、よろしくをお願いします。

○教務課長

中高連携サポート室主幹兼教務課長の畑山です。私の方から先ほど市長からありました、本日午後に予定しております要望活動について、経緯等を踏まえて説明いたします。

まず一点目ですが、遠野高校、緑峰高校の存続ということで、要望をあげております。県が示しました学校再編計画では、統合予定においては地方創生に向けたそれぞれの地域の取り組みの推移、平成30年度までの入学者の状況の検証を行い、統合時期においては検討するという回答をいただいております。

当市では、遠野高校、緑峰高校が対象となっており、平成32年度までに普通科4、農業科1に統合するという計画が出ております。この場合、校舎制を使いまして通学の支援、校舎間のバスの運行等を考えているという対応になっております。

これを受けまして、我々は中高連携サポート室を立ち上げ、中高連携対策といたしまして様々な取り組みをしております。遠野ならではの、遠野でしか出来ない事の特徴を示すために様々な企画を市民の皆さんと行っております。何よりも遠野高校、遠野緑峰高校の両校の魅力化に取り組む、様々な活動を行っております。

例えば、商業系の生徒のことを考えますと、商業科を廃止するという県が示した計画とは別に、釜石線沿線には花北青雲高校の商業科、緑峰高校の商業科、釜石商工高校の商業科、この計5クラスで200名の定員募集が出されておりますし、昨年度の応募状況を見ますと162名の入学者があるということです。それを平成32年度までに県の計

画を実行しますと、2校2クラス、80名にされてしまう。入学者だけで162名の生徒が入っていますが、80名が釜石線沿線では、行き場所がなくなり、私立高校や盛岡や遠くに通うことになってしまい、保護者の経済的負担が大きくなる状況にあります。県の方でも、県外からの入学受け入れ学区のあり方について再検討していく話もあります。場合によっては学区を廃止するということも考えているようでございます。時間をかけて来年度までに報告書をまとめるということでございますが、統合計画、再編計画の順序がございましたので、今回の要望となりました。

2点目です。過疎地域における高校少人数学級実現ですが、高校の1学級の定員数ですが、ここに50人、45人、平成17年度に40人と少しずつ減ってきており、平成18年度以降には定員数は手が付けられない状況にあります。岩手県のことを考えますと生徒数の40人、50人の募集定員でもって教員数が決められるということでもあります。

例えば、4学級40人定員で大雑把に32人の教員が付くということでもあります。35人学級にすると28人の教員ということで、4名減になり40人定員で換算されてしまうと、せっかく少人数学級にしても、必要な先生がいなくなってしまうということで、その場合、県からの財政措置等において必要な先生の人件費をもって補充しなければならない状況にあります。県内の状況を見ますと県北沿岸では、高校標準法の40人よりも多くの教職員を配置している状況にありますし、自主的に少人数学級の運営がされている状況になっております。

これを受けまして、県の方でも40人学級というものがあまして、少人数学級を実現しますと教職員の配置が減少し、県の負担が大きいですし、先生が減ると一人で受け持つ範囲、教科が増え、先生の負担が大きくなる。ということを考えて1学級40人を維持して、きめ細かい指導をしていく考えが現状で我々はこれを維持してもらえれば、我々としても非常にありがたいですが、先ほどから申し上げている高校再編計画では、これを行わないという計画になります。1学級の規模が基準を満たさないならば、募集停止ということを計画の中で謳われています。これらを踏まえて今回要望を行うものでございます。

要望の1としまして、遠野高校、緑峰高校の存続についてということで、それぞれの高等学校が地方創生に向けて地域や行政と連携しながら特色ある新たな高校の魅力化に取り組んでいる状況。何よりも、生徒が学びたいという学校に少人数でも学べるように、選択肢が狭まることのないように、統合の時期を先送りして様子を見ていただきたいという要望を出しております。

そして要望の2といたしましては、高校標準法で、40人定員となっておりますが、それに伴い学校の先生が減る状況であり、それに従って、生まれた地域や、家庭の経済状況によって、本来進学できる生徒が出来ないというような、教育環境の著しい格差が生じないように、全国一律の基準ではなく、過疎地域における特例として高校少人数学級が可能であると、柔軟な制度を構築してくださいという様な内容でございま

す。これは、県だけでは解決できないかもしれないので、国に求めていく、そして同じ問題を抱えている市長村と連携して取り組んでいくという内容で要望したいと思います。以上説明を終わります。

○市長

遠野の教育行政、あるいは教育環境の構築にとって極めて2校存続体制、さらには人口減少社会、少子化社会の中で高等学校のあり方をどのように位置付けるのか、高校標準法という法律の中で40人学級と決められ、その基で財政措置が講じられるわけです。従いまして資料の11ページを改めて確認していただきたいのですが、この部分が私共とすれば、非常に気付きやすい表現があるのではと思ってまいりました。

昨年、一昨年と丁寧な説明をという中で県教委も我々市町村とも向き合い、教育関係者ともヒアリングを行ったという経過もあるわけですが、この中にまとめとして県の結論ですが、1学級40人維持し、財政的な負担を現状程度に留めながら、生徒の学習状況に応じた、きめ細かい指導を継続することが望ましい。と書いてあります。

この中で生徒の学習状況に応じたきめ細かい指導、これは当然のことです。前提的にあります、財政的な負担を現状程度に留めながら、という部分でお金の問題ということは常に思っております。教育を粗末にしている国は50年で滅びるそうです。ある本で読みました。教育といったものを、人材といったものを考えてみた場合に、きめ細かい教育環境をどのようにと考えた場合に、お金だけで済まされる問題ではないのだと、国そのもののあり方も問われる問題だと思っておりますので、その辺を強く訴えながら、この人口減少社会、少子高齢化社会、日本の人口も2040年、2050年には8500万、今は1億2000万ですが、3000万、4000万という規模で減少する流れが決まっているわけです。であれば、人口が増え続けてきたことを考えながら、財政問題どうこうと言ってはられない、新しい仕組みを作ろうではないかということ、強く遠野から発信していきたいと思っております。

他県の方と議論した時に、この問題に対して皆で考えていかなければならない課題だと話合いで、出ましたので、その辺を県の方とも十分話合いをしながら要望をしよう。存続を懸命に頑張っていること、二つ目には少子高齢化問題による過疎地域の高等学校のあり方についても根本的に制度を改正する方向に持って行くべきではないかと、強く訴えていかなければと思っておりますので、皆さんのご理解とご協力をいただければと私からも申し上げます。

早速協議に入りたいと思っております。

それでは「わらすっこの城」整備構想について子育て総合支援課から説明をお願いします。

○子育て総合支援課長

子育て総合支援課の白岩です。それでは、私の方から仮称「わらすっこの城」整備構想について申し上げます。「わらすっこの城」構想は、市役所の西館、旧本庁舎跡地に子育て支援機能を集約し、遠野市の子育て支援施設の拠点化を図るものです。また西館から遠野小学校までのエリアを子育てゾーンとするものです。

では資料1ページをご覧ください。背景といたしまして、児童に対する必要な支援を行う体制整備の重要性について3点ほどご説明いたします。

平成28年度、児童福祉法の一部改正に伴い児童福祉法の理念が明確化されました。それによると、児童は適正な養育を受け、健やかな成長・発達や自立等を保障されること等の権利を有することが明確化されました。また、児童虐待の発生予防として、市町村は、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行う母子健康包括支援センターの設置に努めるものとする。さらには、児童虐待発生時の迅速・的確な対応として、市町村は児童等に対する必要な支援を行うための拠点の整備に努めるものとする。とされています。母子健康包括支援センターは母子保健法で位置づけられておりまして、一般的には子育て世代包括支援センターと言われております。子ども家庭総合支援拠点は児童福祉法に位置付けられているものでございます。国としては2つの機能を担い一体的に支援をすることが必要ではないかという風に至っております。

2ページ目をご覧ください。遠野市の現状といたしましては、子育て世代包括支援センターは母子保健部門で担当しております。助産院を相談窓口といたしまして、平成27年10月に設置されております。場所は遠野健康福祉の里の中にあります。子ども家庭総合支援拠点といたしましては、子育て総合支援課、児童福祉部門が西館を拠点に活動しております。要保護児童、要支援家庭、特定妊婦の支援に係る総合調整を行う要保護児童対策地域協議会が調整機関の役割を担っております。この2つの機能を融合した「わらすっこの城」を整備することにより拠点化をはかるというものでございます。「わらすっこの城」の特徴といたしまして、屋内、屋外の就学前児童の遊び場、保護者の交流の場、それから現在健康福祉の里で実施しております、助産院、母子手帳の交付、各健診、予防接種、児童家庭相談、保育所等入所相談、ひとり親支援、療育支援、就学相談支援を一つの施設で実施しようとするものであります。

3ページ目ですが、施設の概要についてご説明いたします。「わらすっこの城」整備事業、第一弾として、西館を一部改修します。今回新庁舎オープンに伴い、水道事務所が移転します。そこに教育委員会を移しまして、教育委員会の跡に保育協会を移します。保育協会の移設により、1階にスペースが発生しますので、そこに就学前児童の遊び場となる、わらすっこのルームを増設するものでございます。併せて保護者の交流スペースも設置してまいります。第2弾として現在東側に旧庁舎東館がございしますが、解体後に屋外遊戯施設、中央部分に子育て世代包括支援センターを整備。子育て世代包括支援センターの2階には、白岩保育園敷地内で実施している子育て支援センター「まなざし」を移設しながら全ての子育て支援機能を集約していこうというもの

でございます。しかし、「わらすっこの城」を整備するに当たり多くの課題もあります。敷地スペースの課題といたしまして、東館を解体する必要がありますが、東館には防災行政無線の本体が入っており、その移設には多額の費用が発生します。そして駐車場を確保しなければなりません、後ほど説明いたしますが、道路横断の安全確保が課題となっております。

4 ページをご覧ください。第 1 弾の西館の改修について説明いたします。

(改修案の説明)

7 ページをご覧ください。これは、一つの候補として考えている部分ですが、遠野小学校のプールの西側に、区画整備事業で生まれまして広いスペースの空き地がございます。遠野小学校のプールも将来的に改修が必要になってきますが、その際、遠野保育園は昭和57年に整備しておりますので現段階で築35年となり、総合計画後期基本計画の時期には築40年となり、建替えを検討しなければならない状況にあります。また、神明保育園は昭和58年に整備しておりますので、遠野保育園の一年後になりますので、似たような時期に配置を検討していかなければならないという風に考えられます。保育園は保育しながら新しい園舎を作らなければなりません。お休みする施設ではないため、代替地を確保してから開始という手順になりますので、遠野小学校の南側のスペースに保育園配置整備事業の候補地として挙げられております。これによりまして保育園、小学校、児童館、「わらすっこの城」というように一体的な増員が出来るかと考えております。先の課題も話しました通り、クリアするためには非常に大きな課題もありますが、一つ一つ課題を解決しながら、夢に向かって進めていきたいと思っております。私からは以上です。

○市長

今日の協議事項の 1 点目は「わらすっこの城」に係る環境整備についてであります。挨拶で触れさせていただきましたが、本庁舎が、新庁舎、とびあ庁舎の複合施設として 9 月から共用開始となりますが、その集約された跡地を、宮守支所、旧遠野市役所跡地、西館をどのように機能させるか。ニュース等でも盛んに守る、活かすというキーワードを耳にしましたが、守るのか活かすのかという部分で、我々は活かすという対応の中で、在るものに新たな役割をというコンセプトで、こういった施設を活用していかなければならないという風に思っておりまして、そのためには、関係者、市民の皆さんのご理解とご協力をいただかなければならない。こういったものにつきましても、6 ページの資料の中でイメージを膨らませて、上から見た周辺の状況、7 ページの周辺の環境整備でいかに課題があるのかが見えてくるのではと。それらを踏まえれば、西館をどう活かし方も見えてくるのではないかと思います。特にこの西館の活かし方につきましてもあくまでも案として提案ですので、関係者の皆様

の意見も聞いてみなければならぬとも思っております。一昨日、こちらに寄った際に、土日の利用者数について確認しましたが、週によっては3家族だけと、いかに子育て世代に利活用していただくかも考えているところであります。7月にはこのエリアの中にある市有地に、岩手銀行遠野支店が移転改築することで工事が開始するという情報としてお伝えします。

それでは、ただ今の協議事項につきまして、委員の皆さんの意見、質問等聞いていきたいと思っております。なお、これらの一部改修に伴う予算は先般の6月定例市議会で7,200万円の予算は可決しております。ただ、これありきではなく、具体的に決まったなら直ちに執行できるように予算を確保しておりますので、これも情報として皆様にお伝えいたします。

それでは、菊池和子委員から今の説明を聞いて質問でも意見でも、提言でも良いのでお願いします。

○菊池 和子委員

今のお話を伺い、3歳未満の小さい子ども達が遊ぶ場、お母さんやお父さんが交流する場があると思っておりますが、既存の児童館や支援センターとの調整を図っていかねばならないと思っておりました。休日の利用者は3組だけという例もありましたが、児童館は、土曜日はほとんど開いていませんので、土日に子ども達やお母さん達が来てコミュニケーションを取れる場があるのは良いことだと思います。集約されるのは非常に良いことだと思いますが、遊び場として、半屋根付き人工広場を作りたいとありますが、その辺りがイメージできないと思っております。近くにも公園がありますが、普通の公園とどの様に違うのか、はっきりさせた方がいいのかなど。私の中では、遠野は田舎ではあるが、子ども達には普段出来ない土や水に触れさせるような感覚を磨く場が、普段出来ないような体験の場があっても良いのではと思っております。人工芝とありましたので。

○市長

今、土に触らせるという大事なキーワードが出ましたね。

次、崇委員お願いします。

○菊池 崇委員

計画としては、大きくて良いと思っておりますが、何歳までの子どもが対象なのか。先ほど話もありましたが、これだけの大きな計画で、利用者数を増やす必要があると考えるならば、子育て支援に力を入れることは良いことと思っております。例えば、高校生等は高校が終わって帰ってきてどこに集まればいいのか、どこで何をしたらいいのか等集まる場所が無いということが一つあります。もう一つはご高齢者です。これだけの芝生

や設備があるのであれば複合的に考えることは出来ないかと思いました。それと、東館の跡地にこれだけのものを作るのであれば市内の遠くの方、小友、宮守地区との繋がりもどうなるのか、その辺のケアまではいきませんがその辺をどう考えているのか、どうしていくのか、この計画を聞いておきたいです。

○市長

では、千田委員

○千田委員

私も、この計画自体は、子育てするなら遠野と、それに合っている気がします。計画自体は良いと思いますが、私も気になるのは崇委員と一緒に拠点の問題で、小友、宮守の西地区からすると遠く、利便性に欠けると思います。親の交流や、利用者数を考えるのであれば、例えば、とびあのような商業施設に置くのも手なのではないかと思えます。お母さん方からすると移動に時間をかけずに子どもを遊ばせて、子どもが飽きたら買い物が出来て、移動するにもすぐに駐車場がある方が、小さいお子さんを抱えていけば抱えているほど、移動時間が気になる所だと思います。手続き場所が何か所にまとまっていて良いのではと思いますが、もっと詰めなければいけない部分がいっぱいあるのではと思いました。

○市長

では、角田委員

○角田委員

二点、一つは計画全体のハードの部分、もう一つは運営のことについて。まず全体の計画を見させていただいて、既存の遠野小学校、将来的に遠野保育園を設置する可能性がある。子育ての中心となってくるエリアであると、大きな視点で見た時に元気わらすっこセンターは西館を活かすという前提で計画が進められているが、実際、西館の建物自体もまだまだ使えると、たぶん昭和40年、50年代前半かと思いますが、これから耐震や、改修が必要になってくるときに暫定的に活用していくことは大事ですが、より一体的に子育て総合を考える時に上から見ますと、隣が空いています。東館公園から遊歩道を通ってわらすっこセンターまで、思い切ってこの東館にある用地を今後整備の中に取り入れていくと。今の施設を機能しながらわらすっこセンターの遊び場の部分を小学校の校庭、児童公園、東館公園に近い一体的な活用が出来るのではないかと思います。ここまで集約されていますので是非、検討をと……。あと、子ども家庭総合支援拠点ということで、幼児の内でも0歳から3歳までが対象ということですが、私達は教育委員として学力向上に対して、遠野市としても力を入れてい

るわけですが、色々な教育者の話や書籍を目にしますと、学校教育ではなく、家庭教育が非常に大事だと言われています。特に幼児教育、就学前の教育環境、家庭の環境が学力にも影響を与えてくるという視点も、重要な視点として、幼児の段階から家庭で親が子どもと接する時間の中でやる気を引き出す、読み聞かせや、子どもを褒めて伸ばすということが大事なのだということを、ここに相談に来られる保護者に指導していただく。子どもへの接し方、遊びの中でやる気を引き出すことが大事と浸透させていけば学力向上に繋がるというふうにも思います。利用者の中には切実な思いの方も多く来られますが、一般の方も沢山利用できる環境が整ってくるのではないかと思います。是非、学力向上に向けた視点での検討もお願いします。

○市長

角田委員から2点ありました。では、教育長。

○教育長

子育てと福祉は切り離せないものがあり、この機能集約には大きな意味があり、期待したいと思います。委員からもありました、子どもの体験の場をどうすれば充実させられるか、遊びの中に全ての教育があるという言葉があります。土いじり、砂遊び、水遊びも大きな意味のある経験だと思いますので、子どもの視点で施設を考えていくことも必要ではないかと思います。

また、高校生の関わりについての話も出ましたが、高校生が利用するという事ではなく、小さな子ども達と一緒に高校生が関わりを持つという事がキャリア教育に繋がると思います。心配するのは利用する方が安心安全に使えることだと思いますので駐車場の部分についても配慮が必要ではないかと思います。

○市長

ありがとうございました。今各委員から「わらすっこの城」の整備構想について、意見、提言をいただきました。それについて事務局からコメントがあればお願いします。

○子育て総合支援課長

ご意見ありがとうございました。皆さんからの意見も検討していかねばと率直に思います。西館を利活用するという視点からイメージを作っていきましたが、在る施設の融合にという視点でと考えたものです。角田委員のおっしゃる通りのことを考えて行けば、もっとわくわくするような計画になるのかなというふうにも思います。検討を重ねていきたいと思っています。

○市長

課長からコメントがありましたが、今委員の皆さんの話を聞いて感想、これからの取り組みについて所長からありますか。

○子育て総合支援センター所長

子育てするなら遠野という事で、西館を利活用したいと。第一弾としての西館の機能、「わらすっこの城」ですが数年前からある構想で、改修した場合に子育ての拠点を作りたい。今、お母さん方は保育園の申し込みや、各種相談も子育て支援センターに来てされています。そのお母さん方が来やすい施設整備をしていかなければなりませんし、周辺的环境も整備していかなければならないと思っておりますので、今日皆様からいただいたご意見を参考にしながらより良いものを作っていきたいと思えます。

○市長

これは委員の皆さんの意見を聞きながら、さらには関係者の意見を聞きながら、また利用者の意見も聞きながら、子どもの視点に立ってという話もありました。また、宮守地区とのバランスも考えなければなりません。角田委員からもありましたが、これから考えなければならぬ課題も提起された所でもありますから、これにつきましては現場に足を運びながら、どのようにすれば良いか頭で考えてはみますが、例えば、とびあ庁舎のような機能をどう子育てといった、お母さんやお子さんにどう活かしていくかを考えていかなければならないと・・・。

昨日、6つの消防本部が集まりまして、消防救助技術練成会というものがあつて、そこに吉祥園、あおぞら、薬研淵、あつたかいごひといちと長寿の里の老人ホームの利用者がかなりの人数でいらっしゃいました。そこに遠野東中学校の全校生徒が来て、釜石消防本部、大槌、大船渡、陸前高田、花巻、北上、奥州金ヶ崎といった方々が技術を披露しました。消防長、市長は一番良い一等地で見られるわけです。東中学校の全校生徒は熱中症が気になる中、子ども達は非常に喜んで帰って行きました。その後に消防長を呼び、あれだけの規模で行っているのに、なぜお年寄りに解説する職員を置かないのか、全校生徒にもどこから来た消防チームなのかを解説することをしなかったのか。私が観覧する席は一等地でなくて端でもよいのだと。それが気遣いであり心配りなのではないかと話しましたが、どうもその辺が徹底されていないなと感じました。遠野東中学校の全校生徒がかんかん照りの中で拍手を送っている。そんな時に遠野市の消防職員が解説をすれば観客からもさらに拍手が上がり、練成会の選手も張り切り、お互いに気持ちが高まりながらの良い練成会になったのではと。演出が足りなかったと今朝話しました。そういった視点での、お母さん子ども達の視点を忘れないように構想を・・・。

和子委員からもありました土いじり等も大事だと思いますし、ここを拠点にするに

当たり他の地域とのネットワークをどうするか地域バランスも考えなければならぬ。色んな事を詰めていかなければならないと。他ありますか。

○菊池 崇委員

商業施設というところは私も商売をやっているの、色々考えようかと思いますが、具体的にあがっていません。

○市長

これにつきましては、ただ今委員の皆さんから出ました意見を含めながら、さらに構想を具体化していく。これは工程的には…、引っ越しは、8月中には水道事務所が引っ越すわけですね。西館の一部改修の開始時期は9月ですか。

9月、そうするとこの方向で改修するという、皆さんに報告するタイミングはありますね。

もう一度意見を踏まえながらこのような形で一部改修を着工しますという…。議会でも、テレビでも報告する場合はタイミングを見てください。

次の協議事項に入りますが、学びの場づくりについて議論していきたいと思えます。これについて説明をお願いします。

○本庁舎建設室主任

環境整備部本庁舎建設室の太田です。学びの場づくりという事で遠野の高校生から出された、地域教育のアイデアについて紹介をさせていただきます。

まず、学びの場とは何か。授業でも部活でもない、第3の学びの場所を作ろうという概要になります。市内だけでは限られる情報や体験を子ども達に提供する。学校外で集中して学習できる場所。遠野地域の特色を活かした自習室。このような場所を作ることによって地域の活性化に必要な若い力を伸ばしていく。というのが高校生から出された提案になります。

提案者は藤原愛衣さん。現在は花巻北高校2年生で、遠野中学校出身です。この提案をした時点では1年生でした。どんなきっかけでこのアイデアを出されたかと言いますと、遠野中学校の総合学習で取り組まれていた、遠中プロジェクトに参加しての気づき。気づいた内容を昨年会所した人工知能学会市民共創知研究会で論文として発表し、ベストプレゼンテーション賞を受賞しております。その後開催された、市長と中高生と語ろう会で意見を出していただいております。

遠中プロジェクトと人口知能学会市民共創知研究会がどういうものか簡単に説明いたします。遠中プロジェクトは平成27年、28年に2カ年に設置されまして、遠野中学校と遠野みらい創りカレッジと地域の皆さんが協力して、生徒の個々の関心を地域貢献に役立てるためにどういう活動が出来るかという、総合学習のプロジェクトを実施

しました。まず、生徒が自分の夢や関心は何かを考えて議題を作り、その中から関心を遠野の活性化に役立てるにはどのように取り組めるかというのを、自分たちでプロジェクトを立案してそこに関わってくれる地域の人を探して取り組むという内容になっております。写真は、一日市商店街で、生徒がそれぞれのお店取材して、それにちなんだキャラクターを作ってそれを商品化するという取り組みです。その他にもふるさとCM大賞、オリジナルのハンバーガーを作ったりしています。

次に、人工知能学会市民共創知研究会についてです。色んな研究会派がありまして、遠野にきましたのは市民共創知研究会で、市民と研究者が同じ壇上で学術研究として広く国内外に発信する場を提供する。活動について学術研究として発表する場を地域や組織を超えた協働や共創の取り組みを作っていこうと内容になります。名古屋工業大学情報工学科が主催し、このときは参加者が約50名。内市民からの参加が個人、団体合わせて6者ありました。この中には遠野緑峰高校草花研究班がポップ和紙の取り組みについて報告していただいております。日程としては昨年11月末に、遠野に初めて来られる研究者の方もおられましたのでフィールドワークをして遠野を知る。その後それぞれの活動について発表を聞いた後に意見を述べ合う。3日目に全部聞いたテーマの中で自分が関わりたいと思ったプロジェクトチームに入ってセッションを行う内容でしたが、グループセッションで一番多くの研究者が集まったのが学びの場づくりでした。

なぜこの学会が遠野に来たのかというご縁については、みらい創りカレッジ、フジゼロックスが遠野に入るきっかけとなったコミュニケーション技術研究所、こちらが事務局を持っていたこともあり遠中プロジェクト設計などを行っていた部署になります。

その他に発表された研究の例です。

こういった色んな研究がある中で、愛衣さんが提案した内容をこちらにまとめてあります。「岩手県遠野市を例とした地域教育のあり方の提案」という内容で、授業でも部活でもない第3の学びの場が地域の活性化に必要な若い力を育てるのに有効であると、有効性について述べてあります。遠野市内だけでは限られてしまう情報や体験を第3の学び場が提供する。これに気が付いたのが遠中プロジェクトと東京大学イノベーションサマープログラムで、この機会に大学生と高校生が出会うことで、自分の夢や将来の夢や希望に興味を持てるのか、いい機会になり視野が広がっていくという事で、愛衣さん自体も遠野市外の高校に通っていますが、生徒が市外の高校に流出してしまう可能性も出てくる。ただし、遠野の将来を担う人材というのは、遠野を出て、学んで、能力を持って帰ってくる人材なのではないか。中高生が地域を発展させる人材になるためにはどんな夢を持てるか、自分にはどんな職業が合うのか、そういうことを知る機会を遠野でも作ろうと普段の自学自習の環境づくり。夢を叶える基盤づくりとなるのはやはり基礎学力であり、その基礎学力を身につけるための場所づくり

「静」と「動」の自習室。そして戻ってこられるまちづくり。この3項目が必要と提案してございます。

遠野市の課題として、人口減、少子化、人材流出があります。特に人材流出については地域が大事に育てた人材が大人になって帰ってこない。人材育成コストが地方に還元されていない。現在のマイナスだけではなく、将来的にもマイナス要素になってくる現状があります。そこから生まれてくる教育関係の課題は、市内の高校の統合や、まちづくり人材育成、まちの活性化等の色々な課題に対応するために施策を打ち出したとしても、それを担う人材がいなければ実行することが出来ません。まちづくりをするためには人づくりが必要だと考えております。

そして、なぜ遠野から人材が流出してしまうか、自分の夢や理想のライフスタイルを実現できそうだとイメージ出来るまちへ出ていくのではないかと感じます。高校でも新たな人間関係作り、学習レベルや部活のレベルが上がりそうだというイメージを持てるか、興味のあることが出来るのではないか、給料がいいかもしれない、理想の暮らしが出来るかもしれないまちなのではないかという事を考えて、皆さん、自分の進路を考えているのではないかと思います。

それでは遠野市に残ってもらうには、遠野でも出来ることがあるという事を知る。遠野でもイメージできることがあるという事を知ることが、遠野に帰ってきたい、遠野に戻ろうという気持ちに繋がるのではないかと。そのために学びの場が提案しているのが、情報提供や勉強できる施設。その中で出来ることを増やしていく。遠中プロジェクトでも職業を自分の親や知っている大人の職業だけで考えてしまう。もっと遠野市内には色々な職業がありますが、その職業に触れることなく今の環境の知識だけで考えてしまう。また集中して自習できる環境が無い。学校、部活が終わって電車の時間までに何かしようとした時に、遠野では行ける場所が無い。場所があっても賑やかで、自然と勉強できる環境が少ないなど。特色として、交流の中継地点という事から文化を取り入れ、文化を作っている歴史。市外から海外まで現在にいたるまでを受け入れて自分たちのものにしていく柔軟性が遠野の特色としてあります。そこで学びの場では交流によって市内の考え方や情報を取り入れることで逆に遠野の良さを知る。夢や職業について知る機会を作る。普段の自学自習の環境づくり。「静」の自習室では個人の勉強に集中できる環境づくり。「動」の自習室では講演や研究等の成果を発表するアクティブラーニング。そういった活動の中で遠野に戻ってきたくなるような教育、遠野に誇りを持てるまちづくりをしていく要素が必要なのではないかという事です。

学びの場の可能性として、進路選択において、遠野市で夢や興味を考えられること、知識を知る機会が増えること、それを中学校時点から知っていれば、遠野でも勉強できることがわかり仕事の選択が広がると。すでに色々な大学や企業と遠野市は連携を行っております。こういったところを「動」の自習室に関わっていただいて、学

びの機会や情報の充実にしていきたいと。学びの場の活動自体に参画している評価なされているという事を目に見える形にしてはどうか、前日の人工知能学会市民共創知研究会のテーマでありました。例えばまちづくりのポイントカードとして定着しているすずらん振興協同組合のスキップカードがあります。活動するとポイントが付く。段々と市民が関わって受け入れられるようになるといいのではと思います。まちなかの活性化や特色のある地域づくりを打ち出してはどうかと。高校生から見たもの、汽車とのアクセス、見守り体制など。

具体的にどういうイメージがされているかという、紫波町にあるオガールプラザ内にあります、町立図書館を載せてあります。高校生が学校帰りに勉強している風景です。紫波の若者は地元に戻る、なぜならばこの場所があり、皆が集まり、ここにはこういうものがある、と自慢してくる。そういった自慢に思える環境を作ることが大事。

ここからは担当個人のイメージですが、行くだけでステータスのあるような空間づくり、学習意欲の高い生徒も、これから高くなる生徒も、その場所に行くことがお洒落で、自然に集まれる。その場に行くことにエネルギーを使わなくていい、むしろお洒落だから行きたくなるくらいの、こだわった空間づくりをしていきたいと思っています。学びのきっかけ事態はなんでもいいので、集まった先で、それぞれが学習習慣をつけて行くことが学びのきっかけになると思います。

実際に、駅前にもどのような場所があるか、高校生の藤原さんと一緒にフィールドワークを行いました。場所、環境、駅からの距離、見守り体制があるか、利用時間、音、通信環境等の項目を見て、18ヶ所を見学してみました。

(フィールドワークの説明)

こういった場所づくりをしていくために、他の高校生ともフィールドワークやワークショップを行いたいと思います。遠野市の中心市街地再開発プロジェクトですが、遠野駅舎だけではなく、あすもあ、物産館等、担当者合わせて、色々な環境について理想的な配置を検討している団体もいます。こういったことも含めて駅前の一等地を遠野の未来を担う子ども達に投資してはどうかと。遠野市に戻ってくる動機の一つ、遠野市が好きだということ自体が一番で、ここで育った人材が戻ってきてくれば、まちの活性化になるのではないかと、そういうことも合わせて高校生からの提案を紹介させていただきました。ありがとうございました。

○市長

これは、協議というより情報共有という事で、中高校生の諸君の夢や考えを踏まえての話題提供、情報共有という事だと思います。中心市街地の再開発、駅前は一等地という記述もありますが、これらにつきましては、きちんと土俵を整えまして6月6日

に、遠野駅舎を考える会の色んな意見、提案を基にJR盛岡支社を訪ね、支社長と意見交換をし、遠野市としては駅舎問題をまちづくりの一環として考えていきたいと。利活用をどのようにしていくかについて話合いをしたいと、正式に申し入れいたしました。JRの方からもメンバーを揃えて、駅舎問題をまちづくりの一端を担う駅舎として、改築か、耐震補強をして再利用するか、解体し新たに駅舎を作るか、何が一番良いのかという事を話し合い、JRからも協力するという事の合意を得ております。その中で、学びの場づくりも披露していくことになるかと思えます。本庁舎が完成すれば、今度は仲町通りを一日市通り、駅前通りを。駅前通りは30年前の竹下内閣のふるさと創生資金1億円を使いまして、民話をモチーフにしたスポットがあるわけですが、再び輝かせるためにはどうするか、また、空き家、空き店舗対策も考えていかなければなりません。次々と色んな課題があります。時間と予算がかかることですので、しっかりとしたビジョン、夢を持たなければならない。中高生が持っている夢、望んでいることに少しでも近付けるために皆で向かって行こうという中で情報を受け止めながら、色んな説明を聞いて、皆さんの意見も聞きたいと思えますが、今度は崇委員から学びの場について、夢などを聞かせていただけたらと思えます。

○崇委員

学びの場づくりでの提案ですが、非常に前向きで、これからの遠野を考える上で、第3の学びの場として駅前の一等地を子ども達に投資するという考え方に共感しますし、素晴らしいと思えます。是非この方向で進んでいただきたいと思えます。前から遠野高校、緑峰高校の子ども達が遠野に来て、いる場所が無いという事を聞いていましたので、その中で第3の学びの場、そういった町並みを作ることは郷土愛に繋がります、また遠野を出た後も良いイメージをもって帰って来ることが出来、遠野に住んでもらえるという一本のラインが出来るのではないかと。素晴らしいことですので、是非協力していきたいと思えます。

私が言えることですが、ポイントについてですが、人を動かす力があると思えます。提案の中で目に見える形を提示するという事は良い話で、例えばですが、システムの関係があるので色々話合っていかなければなりません、スキップカードを図書館などの施設でポイントをもらえるようにして、満点カードが現金の代わりに使えるだけではなく、魅力のあるものと交換できるシステムを構築するなど。問題は多々あります。満点にするためには、正規であれば8万円近くの買い物をしなければならない。子ども達が満点にするにはハードルが高すぎます。商売をしていて、ポイントで人が動くというのは知っていますので、子ども達が図書館や学びの場に足を向かせるために、そういうことを活用するのは良いことと思えますし、子ども達自身も学びの場に行くことが楽しみになるし、ステータスにもなるのではと思えます。聞いていて一緒に考えていきたいと思えました。頑張ってくださいと思えます。

○市長

具体的な提案もありました。
千田委員、夢を聞かせてください。

○千田委員

遠野高校、緑峰高校の高校生が言っていたのが、遠野には居場所が無いと、学校帰りにいる場所が無いと。私達の時代は喫茶店に行って友達とおしゃべりすることがお洒落で、すごく楽しくて、きょうはどこ行こうなど場所がいっぱいありましたが、今はそれが無いらしく、喫茶店に通う子もいないと思いますし、居場所が無さ過ぎて、友達との関係作りもですが、友達とおしゃべりすることでアイデアや、発想が生まれると思いますが、その環境が失われているのかなと感じます。是非実現していただきたいし、上郷中学校の跡地利用で図書カフェのような、気軽に行ける場があれば良いのかなと。駅前整備等の課題はあると思いますが、中高生、若者の居場所を

○市長

キーワードはお洒落ですか。

○千田委員

そうですね、今の子はお洒落でないと興味がわかないと思いますので。昔であればバンドを組むことも、それを考えればバンド練習が出来る場所もあっていいのかなと思います。お年寄り向けのもはいっぱいありますが、ほんの少しで良いので、若者の居場所、スペースが必要なのかなと。高校再編の課題にも繋がると思います。是非若者の溢れる街にしてほしいです。

○市長

今崇委員、千田委員からありました。教育長から何かありますか。
学びの場というコンセプトの中で、高校生の提案を踏まえて…、意見と夢をお願いします。

○教育長

遠野の魅力といった時に、子ども達が言うこと。それは人がいい、自然が豊か、挨拶がきちんとできる。それはどこにでもあることなのだと。遠野の魅力というのはこういう所なのだと若者がきちんといえる、遠野の魅力について話すことが出来る、そのためにどういったものが必要かという、この学びの場が必要なのではと感じます。自分で必要と勉強する場があり、仲間と話し合う場があり、場合によっては地域

や大学の方が入り学びを深めていく。学校とは違う、学校であれば先生方が指導してくださいますが、主体的に学びができる場を実現させてあげたいと思います。愛衣さんが2年生ですから卒業するまでに是非この場を設定してあげたいと思います。

○角田委員

人工知能学会市民共創知研究会、人口知能AIですが、今細かな学力が要求されていて、すごく発達しているわけです。化学雑誌で2030年には今の職業が60%なくなると言われています。どういった形になるか分かりませんが、高校生たちも肌で感じているのではと思います。これからどういう仕事をしていけばいいのか、子ども達自身悩んでいます。今まであった職業が、自分達の働きを人工知能が奪っていく恐怖心がある中で、私達大人が子ども達の教育の仕方、方法を変えていかなければならないのかなど。では働き方改革と言われていますが、ではどういったものなのかという自分にしか出来ないもの、他の場所では出来ないのもののように独創性が無いと職業として成り立っていかないというハードルもありますし、そういう中で遠野のようにどこにいても仕事が出来るという環境ができてきています。今の若い人達が、高校生の時から慣れ親しんでいくという事が大事なことと思います。そのための学びの場は非常に大事ですが、これは設定が非常に難しいと思います。今までのまちづくりは大人が、高齢者が中心となって使いやすいようにという発想、デザインの作りになっている。子ども達若者に独創性のあるアイデアを出させる教育をしていくときに、大人が設定してしまっただけでは、やはり若者が活用する場にはならないと。若者自身が目的を見出して、目的というのは自然発生的に高校生自身が自分たちで作りに上げていく、そういったフレキシブルな空間の作り方をして、この先は若者自身が作っていくのだと。そこに、宮守と小友ですが、非常に距離感が難しいと思います。若者の隠れ家でお洒落な場所というのは大人からある程度視覚の届かない場所でないとお洒落ではないと。かといって野放しには出来ないですし、見守りの距離感も難しいのかなと思います。若い人達との話し合いが必要なのかなと思います。我々、50も過ぎてアイデア出すというのは限界があると思いました。

○市長

では、和子委員。

○和子委員

今の角田委員の話の中に、今の子ども達自身が手をかけないという場をスタートさせられないのではと思いますので、まず始めることが必要だと思いますので、環境が人を変えるという言葉がありますが、子ども達自身がそういったものに携わっていて少し自信をつけて行く、こんなことが可能なのだ、自分たちが動けばこんなこと

も出来るというきっかけ作りがこれから必要なのかなと思います。子ども達が何を欲しているのか、自学自習する場や情報を得る場等あると思いますが、まず子ども達が何をしたいのか、いきなり全部を一緒にやることは、子ども達にはすぐ出来ることではないと思いますので、まずはこれを、まずはこんな形でというようにアイデアがあれば嬉しいなと思います。私と子ども達は年齢が離れていますので、押しつけではない程度にアドバイスするような関わり方をしていきたいと思います。高校再編と関わって子ども達のいる場所があれば、遠野にはこんな場所があるから、遠野高校に行ってみようとか、緑峰高校に行ってみようこんな勉強をしながら、様々な人と学校間の交流をしてみようなどの気持ちも出てくるのかなと。

まず、小さいことでも良いのでやってみることが大事だと思います。

○市長

学びの場、という一つのイメージから、遠野市の課題等のキーワードがありますが、なぜ遠野市から転出するのか、ライフスタイルを実現できそうだというイメージが出来るまち、提案として、遠野でできることを知るという言葉も大事ではないかと思います。学びの場の可能性、一気に駅前と持って行っていますが、その辺を踏まえながら駅舎問題の利活用を考えれば、大事な情報ではないかと思います。

千田委員からありました、喫茶店でコーヒーを飲みながら様々な語り合いがあり、コミュニケーションがあったわけです。こういったこともこれからの時代に大事なのではと思います。あそこに行けば、あの人に会える、あの人と語り合えるというような、それもステータスになるのかなと。美味しいコーヒーも飲めて、お洒落という言葉もキーワードになるのではないのでしょうか。

皆さんの中で、この若い方からの提案に対して、何か構想や、エールを送りたいなど。これはただ、夢だけではなく引っ張っていかなければならないプロジェクトなわけですから、時間がかかります。

○まちづくり担当部長

まちづくり担当の千田です。先ほど太田さんが発表しましたが、これについては、みらい創りカレッジとの関わりの中で色んな取り組みをしておりました。中心市街地の方のフィールドワークをしながら感じたことを発表しましたが、一日市の旧三田屋でもやっておまして、それは遠高生、緑峰高生が学校の勉強だけではなく実際のフィールドワークでの体験を通じて感じたものが多かったようです。将来何になりたいかという志しを、体験を通じて感じたような生徒もおりましたので、百聞は一見に如かずとありますが、経験が一番だと今回の体験を通じて強く感じました。

○市長

それでは、学びの場づくりの構想について、構想を少しでも形に持って行くように力を合わせていきましょう。という事で一つご理解をお願いいたします。

では以上をもちまして今日用意しました2つの項目については情報共有できたと。「わらすっこの城」についてもその方向で進めるということで、具体的なきちんとした中身については今日の委員の皆さんの意見を踏まえながら、さらに担当の方で詰め、また関係者の話も聞きながら、「わらすっこの城」の構想を膨らませ形にしていこうと思っておりますので9月以降の着工予定になると思います。教育委員会が水道事務所へ移転し、保育協会が教育委員会へ入り、一階に子どもが自由に遊べる空間を作り、子育て総合支援課が事業を構え、それに伴い東館、旧商工会館、教育会館の環境をどう整備していくか、遠野小学校の周辺とどうリンクさせるかという導線を作っていくこととなりますから宜しくお願い申し上げます。それから3階にあります東大の分室は、震災から6年になりますので、正式に引き上げるという話が来ておりますから、3階は会議室として校長先生や先生方、保育園の先生方の色んな打ち合わせ、会議の場としてフルに使っていただけたらと思いますからその方向で整備していきたいと思えます。

協議事項の2は構想でありますから、まちづくりという視点の中で学びの場というコンセプトの中から、どの時点で、どのような形で具体的なものが出せるのか。お金との相談になってくると思えますし、基本構想が実施設計になり進めれば、当面はあすもあと駅舎の利活用の問題と、仲町、駅前通り、一日市通りに展開している空き店舗、空き家をどのように利活用していくのか、またそこで得た土地をどのようにまちづくりに活かしていくかという事も考えていかなければならないと思っております。それから、中心市街地の中でと位置づけましたが、周辺にも配慮しながら整備していかなければと。数字が出ておりますが、昨年出生数が131人です。平成22年、23年は180人位で人口減少、少子化が遠野にも押し寄せてきている現実がありますから、だから仕方がないではなく、だから魅力のある住みやすい遠野で子育てをと一つのものに向かっしていかなければと。国の動きだから仕方無いというわけにいかないという事を、我々も課題に立ち向かって調整していかなければ、高校再編も一緒です。さらなる議論を深めて参りたいと思えます。

事務局にお願いですが、中体連の結果が遠野中学校、東中学校、西中学校それぞれの競技ごとの結果の報告をいただきましたが、中学校再編して4年、学力向上の結果が出ているのか、英語教育もどういう状況にあるのか、総合教育会議で情報をいただきながら、課題があれば遠野市で何をしなければならぬかという部分について、議論をしてみたいと思っておりますので、その方向で議題調整をお願いいたします。

○教務課長

その他でございますが、「市長と夢を語ろう会」において、中高生も皆さんから出さ

れた主な意見。そして時間の都合上、後日の回答になりました将来の夢について、この場を借りて配布させていただきます。

○市長

今日、県の教育長の方に要望するわけですが、その際に遠野の取り組みの中における遠野高校と緑峰高校の取り組みの状況で、どのように頑張っているのか新聞報道等された様子を整理されました。緑峰ニュースで緑峰高校が頑張っているというようなものも資料として用意いたしました。遠野市も遠野としてのまちづくりに、高校再編問題が大きな市政課題でもあるというストーリーを持ちながら遠野としてのまちづくりに取り組んでいる。遠野市という一つの自治体において高校の存在というものがどれだけ大きなものなのかをわかってほしいと。その中で単なる40人学級の議論をしないでほしいと強く訴えてきたいと思います。あとはアクションプランをきちんと実行しながら、単に要望書だけ渡すのではなく、皆が頑張っている、皆の課題として。財政の問題だけでなく、県立高校だから、県だけでなく我々市町村も議論に入れてくれないかという方向に持って行きたいと思います。委員の皆さんの更なるご協力とご理解をいただきたいと思います。

○教育部長

それでは皆さんから、ご意見はございますか。

(全員なし)

それでは以上をもちまして平成29年度第1回の総合教育会議を閉会いたします。
長時間に渡りお疲れ様でした。

閉会 午後0時10分

会議録作成者 遠野市長 本 田 敏 秋

署 名 教育長

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員